

「新聞」及び「岩波ブックレット」を使った小論文指導（平成八年度を中心に）

雲 山 由美子

一、はじめに

「皆で集まって元気をもらおう」と、最初は「源氏物語を読む会」から始まった県内の四人の仲間が月一回集まってお互いの実践を持ちよるところから「阿星会」という研究会を発足させたのが平成七年の夏である。昨年は三校で同一の実践をし、本年度は新たに加わった仲間を入れて四校での取り組みを行っている。「個人の実践」ではなく同じ意識を持った者が集まって、同じ視点から実践を行ったのであるが、随分と刺激を受け、授業に深まりができたように感じる。

さて、この共同研究の目標を次に述べたい。学習指導要領の改訂によって、「生きる力」Ⅱ「自ら学び、考え、主体的に判断する資質や能力」の育成が求められるようになった。新学力観では、従来の「知識の量」を中心とする学力に、興味・関心・意欲・態度等を含めた、「知識を獲得する力」や「判断力・表現力・思考力」等を学力という。そこで、「生きる力」や「知識を獲得する力」等を育成する

ためには、どのような授業展開をしていけばいいのか。また、昨今の小論文入試の増加に伴って、どのようにしていけば受験に対応していける力を付けられるのか。更に、異なる学校、異なる学年を担当している教師同士が、それぞれの立場で、生徒に対応する授業展開をしたら、どのようなせまり方ができるのか。

以上三点の目標を達成するために、新聞等を活用した国語表現の授業の中で、話すこと書くことの場合「的確」に設定していくことにより、主体的に生徒に考えさせ、自分の意見を論理的に述べたり、相手の意見を聞き取る能力を養成していくことにした。

二、各校生徒の実態

（甲西）

平成七年度の卒業生の進路状況は、大学進学30%、短大26%、専門学校28%、就職8%、その他（浪人含む）8%。過去の数字をみると、推薦入試での合格者の方が多かった

が今年初めて、一般入試の数の方がうわまった。平成八年度、三年生普通科一、二年生普通科一〇、一年生普通科八クラス。

* 授業実施クラス

国語II 3 単位 + 1 単位増 + 文系二クラス

国語II 3 単位
— 文系五クラス

(草津)

平成七年度の卒業生の進路状況は、大学進学 8%、短大 25%、専門学校 28%、就職 32%、その他 7%。平成八年度三年生普通科七クラス、一・二年生普通科六クラス。

* 授業実施クラス

選択国語表現 2 単位二クラス

(草津東)

平成七年度の卒業生の進路状況は、大学進学 50%、短大 28%、専門学校 8%、就職 1%、その他(浪人含む) 13%。学科構成は平成八年度、三年生普通科九クラス、一、二年普通科八クラス体育科一クラス。

* 授業実施クラス

国語表現 2 単位私立文系一クラス 1 単位分

国語表現 1 単位理系(看護系)一クラス

三、研究の実際

※各校がそれぞれの実践をどのように「響き合わせ」て研究を進めたかということをア・エで示し

た。(詳細は資料 A)

① 新聞スクラップをする

ア 甲西 懸賞付き入試問題予想(資料 1)

イ 甲西 ところてん式相互評価法(資料 2)を発案する。

研究会で検討を重ね、甲西で実施

ウ 草津・草津東は甲西の実践を生かし、さらに「他の人の見て・先生に一言」等を付け加えて実施

② 新聞記事を読んで意見文(作文)を書く

ア 草津東 新聞記事の中から意見文を書かせる

イ 甲西 新聞スクラップの中から自分の進路に関わる記事を取り出して、意見文を書かせる

ウ 草津 人物紹介の記事を読んで、スピーチ原稿を書かせる

③ 新聞記事を選んでスピーチ発表をする

ア 草津東 平成七年のスピーチ発表を踏まえ、スピーチ発表の実際を二校に伝える

イ 草津 昨年度の草津東の実践を聞き、面接指導をかねたスピーチ発表をさせる

草津で評価表を作成し、他校も使用(資料 4)

ウ 草津東 草津の実践の反省を踏まえ、セミナーハウスでビデオ撮影をしながら、発表させる

エ 甲西 二校の実践をふまえ、進路に関わるスピーチ発表をさせる(資料 3)

④ 新聞スクラップ等をふまえ表現活動をする

ア 草津 自分紹介の新聞を作成

イ 草津東 夏期課題として小論文を書かせる(資料6)

ウ 甲西 新聞等をふまえ、自主申告制課題をさせる

⑤他教科との連携をはかって小論文を書く

ア 草津 一学期の家庭と保健の授業を受け、二学期に意見文を書かせる。(実質的な連携はなし)

イ 草津東 草津の実践を受け、政経と連携。英語と政経と連携した授業を実践

ウ 甲西 英語と連携(夏目漱石「こころ」)(資料9)

⑥新聞広告から制作者の意図を探る

ア 八月の研究会の際、「カルチャー」から「サブカルチャー」が今後の課題としてあげられた

イ 甲西が他校の実践報告から広告分析を提案

ウ 草津・甲西が新聞広告を使って実施(マキノプリンスホテル・野茂の缶コーヒー)

エ 草津東 草津・甲西の生徒作品を活用し実施(天津のバルコ「シネマ誕生」)

四、各校の実践より(甲西高校の場合を中心に)

1 懸賞付き入試問題予想(資料1)

新聞をスクラップしそれを授業で使用することが生徒の情報分析力あるいは表現力を向上させる、ということは当然期待できるのであるが、生徒にとってそれが強制的・機械的作業であつて、自主的・意欲的な活動になりえなければ、決して考えが深まることもなく学習効果も半減するであろう。

そこで、生徒の意欲を喚起し、かつ必然的に深い思考が求められる学習活動方法として「懸賞付き入試問題予想」を新聞スクラップに取り入れた。

毎年、多くの大学で新聞記事を利用した学力試験問題及び小論文が出題されるが、今年出題されそうな記事を選び、どのような内容の入試問題になるか問題文例を作成させるのである。

このことによつて生徒は必然的にこれまで以上に記事を詳しく読み、その内容を深く把握しなければならない。甲西高校の生徒に人気の高い大学に的を絞り、具体的な大学名を明示することによつて、生徒の合格への意欲をも喚起できると考えた。また、的中者に図書券等の懸賞を出すようにしたことも生徒の関心を高めることに役立つであろう。

2 ところてん式相互評価法(資料2)

生徒に様々な表現活動をさせていると気づくことであるが、多く、生徒は自分の考えを積極的に発表することにはためらいがちであるが、その反面、他の生徒がどのような考えを持っているか非常に知りたがっている。友人の考えや興味を、自分のそれらよりもすばらしいと思われる場合には驚嘆し、そうでない場合には自分に自信を持つたりする。スクラップされた記事は、とりもなおさずその生徒が日

常興味を抱いていることであるはずなので、生徒個々の考えや興味・関心を交流させるにふさわしい教材になりうる、と考えた。方法はおおよそ次の通りである。

「評価用紙」の「1」「2」欄に、各自が今回スクラップした記事数、及び入試予想問題記事数を記入し、持ち点とする。教室の机の縦の列について、奇数列はスクラップブックと評価用紙を後ろの生徒に、偶数列は前の生徒にそれぞれ渡す。各列の両端にはスクラップブックをもたない生徒と二冊ある生徒とが隣同士でできているはずであるから、二冊持っている生徒が全く持っていない生徒に一冊を渡す。教室の廊下側の最前列の生徒と窓側の最前列の生徒も同様の状態になるが、これについては教師が運んで渡せば良い。生徒は評価用紙に他の生徒の成果について「A・B・C」の三つのランクで評価（評価基準はその都度適切なものを設定すれば良い）をし、何かコメントを添える。これをひとりが十名分評価するまで回覧する。その後、「A・B・C」を点数化（今回はA=2、B=1、C=0とした）し、合計したものを「1」「2」に加算した上で、スクラップブックと評価表を元の持ち主に返却する。返却された生徒は、評価と他の生徒のコメントを見て、今回の自分の取り組みについて感想を書く。教師が生徒の成果をおおよそ把握しておけばよい場合なら、評価用紙のみの回収で事足りるのである。

以上が「ところてん式相互評価法」である。高得点だつ

た生徒は次回も高得点を目指すであろうし、低い評価だった生徒は奮起するであろう。概して生徒は、他の生徒の評価を気にするものである。しかし、この方法は評価そのものよりも情報の交流に重きを置いたものであることを忘れないようにしたい。また、スクラップ以外の表現活動の評価および情報交流についても有益であることは言うまでもない。

3 「岩波ブックレット」を読んで小論文を書く（資料7）

二学期に入って、新聞スクラップだけでなく、図書室に生徒を入れて「岩波ブックレット」及び「岩波ジュニア新書」を読ませた。指定の座席に着席させて「岩波ブックレット」を読もう」というタイトルのB4版プリントを一枚配る。「自分の気に入った本を選びなさい。この時間中に読むように。」簡単な説明を加え、作者が言いたかったこと（要旨）と、キーワードを抜き出すよう指示する。図書室のテーブルいっぱいには広げられたブックレットの前で生徒たちは五分ほどあれこれ迷いながら本を選んでいく。どうなることかと見守っていたが、七、八分もすると全員自分の場所に帰って本を読み出した。生徒たちはこちらが予想していた以上に熱心に読書に励み、図書室は文字通り、水をうつたように静まり返り、誰も声を発する者がいないのには驚かされた。

その後、プリントに沿って第二時「作者に手紙を書こう」第三、四時「小論文を書こう」と作業を進め、「とこころてん式評価法」を使って相互評価をした。

4 他教科と連携した授業実践(資料9)

二学期に入って本校の第二学年では夏目漱石の『こころ』を授業で扱った。

近代的自我・我執の問題を掘り下げ追究した、後期三部作を締め括るこの作品は、その主題の深さゆえであろうか、国内のみならず外国においても英語訳本として出版され多くの人々に読まれているという。原文とその訳文という関係は、言わば日本語を用いる民族の思考を英語を用いる民族の思考が英訳という形で置き換えるということであるから、それぞれの文化的背景によつて表現に差異が生じることも多々あろう。日本語以外では用いられない表現もあろうし、英語にはその語義自体が存在しないということもあろう。

私が特に興味を抱いたのは、「下 先生と遺書」の「私(先生)」の精神世界を英文ではどのように訳しているか、ということであった。明治の日本人独特の視点・概念といったものを、どのような表現に置き換えているのか。そして、なぜそれらの表現が選ばれることになったのか。

それらについて、生徒にも一緒に考えさせてみたいと思ひ、本校英語科の先生の協力の下、「国語II」現代文領域

及び「英語II」リーディング領域の授業時間を利用し、原文の同箇所を読み進めながら比較していくというタイアップ授業を実践した。また、生徒の理解を試し評価するための試験と、反応を把握するためのアンケート調査を実施した。

(ディベートの事後課題「こころ」裁判)

今回の取り組みのまとめとして、「私」を被告とする裁判が行われる、と仮定し、生徒全員が検察あるいは弁護、それぞれの立場で弁論を展開する「こころ裁判」(資料9)を実施した。聞き手(読み手)を説得するための根拠を重視させるようにして、「私」が有罪か無罪かを主張させた。通常のディベート授業と異なり、全員が積極的に参加せねばならず、なおかつ主張する立場にも判定する立場にもならねばならないので、幅広い集団学習力の育成に効果的であろう。

なお、評価は「とこころてん式評価」を用い、評価と同時に生徒相互の情報交流にも勤めた。更に改良を加えて、体系的な合科的授業を目指し実践を続けていきたい。

(草津) ③新聞記事を選んでスピーチ発表をする

④新聞スクラップ等をふまえて表現活動をする

まず、人物紹介の記事を使ったスピーチについて報告する。今回この研究の授業実施クラスは選択国語表現二クラスである。私が担当したこの二クラスの生徒たちの約半数が就職希望、残りの半数が専門学校または短大進学希望である。短大進学希望者も全員が推薦入試を受験する。その

ため、このクラスの生徒たちの約三分の二がそれぞれの進路決定にあたり面接が課されることになっていった。そこで、今回のスピーチの目的は面接のためのものであることを最初に生徒たちに話をした。

また、この授業を実施する前の週に、進路課、三学年合同による第一回就職模擬面接指導が実施された。この指導を受けた生徒たちは、人前でフォーマルな言葉で話すことの難しさを痛感したようである。そして、この授業の一ヶ月後には就職の校内選考が予定されていた。そのため、「面接指導の一環としてのスピーチ発表」という私のねらいが生徒たちに明確に理解してもらえた。

面接というのはい己アピールの場である。自己紹介のスピーチをと最初は考えたのだが、すでに一学期も半ばを過ぎており、時期的に遅いように感じた。そこで、他人紹介を考えた。

まず新聞各紙の人物欄をコピーし、生徒たちに配布した。人物紹介のスピーチをするので次の時間に新聞の人物欄の切り抜きを持ってくるように指示した。次に、生徒たちには四〇〇字でその人物を紹介するスピーチ原稿を書かせた。原稿の中にはその人物の生き方に対する感想を書くように話した。

私がこの学年でスピーチを実施するのは今回が初めてである。この学年を一年から担当し、ずっと頭を痛めていたのは「いかに生徒たちに教師の話を聞かせるか」というこ

とであった。学年が上がるにしたがって、生徒たちは落ち着いてはきたものの、「友人のスピーチをはたして静かに聞くことができるのか」私には大きな不安であった。私の担当する選択国語表現の二クラスのうち一クラスは二三名、もう一クラスは習熟度別クラスの学力の低い方のクラスでなおかつ四〇名である。

少しでも静かに聞かせるために二つの方法を採用した。まず一つは、生徒たちの聞く態度を教師が採点し、聞く態度の悪い者は減点すると指示したことである。生徒たち自身はスピーチ評価表で友人たちのスピーチを評価した。もう一つは、教室内にビデオカメラをセットし、スピーチを録画したことである。

上記の方法の効果もあつたのであろうが、私の予想以上に生徒たちは静かに友人のスピーチを聞くことができた。と言うよりむしろ私の予想（不安）に反して、生徒たちは真剣にかつ誠実に友人のスピーチを聞いていた。これは、三年間担任として持ち上がりでこの学年の生徒たちと付き合ってきた私には大きな驚きであった。生徒たちのスピーチを聞き終えての感想には「おもしろかった」と言う者が何人も見られた。自分が人前でスピーチをするのにはまだまだ抵抗があるようだが、他人のスピーチを聞くことには大いに興味、関心があることがわかった。

また、初めにねらいとしてあげておいた「面接指導の一貫としてのスピーチ」という位置付けも生徒たちは理解で

きていた。終了後の感想に「これは本当に面接に役に立つと思う。」指摘している生徒がいた。最優秀に選ばれた生徒は、しっかりと前を向いて話していた生徒で、面接の際「姿勢をまっすぐにし、「面接者の方を向いて話す」ことの重要性をこのスピーチを通して学んだことが窺われた。

後日談になるが、今年度も高卒女子の就職状況はかなり厳しいものがあり、本校の生徒も面接でしっかりと自己アピールができず不採用になった者があった。三年生になってからの面接指導では遅すぎるのである。一年生よりスピーチを積み上げることの大事さを痛感した。

次に「自分紹介の新聞」作りについて報告したい。新聞の大きさはB5とした。まず次の四点について注意を与えた。

- 1、新聞の名前をつけること。
- 2、表現の方法は自由であること。イラスト、漫画入りでもよい。

- 3、自分のどこをアピールしたいか、よく考えること。
- 4、記事の中に、「自分はどのような生き方をしたいのか。」を必ず入れること。

写真や雑誌の切り抜きを貼つてあるもの、色鉛筆やサインペンで色とりどりに絵を描いてあるもの、鉛筆で文字だけ書いたもの等、とにかく多種多様な新聞が出来上がった。私はこのような作品を読む（見る）のが大好きである。

「国語表現」というとともすれば、文章表現のみを考えがちであるが、そうではないと思う。

実はこの学年は、二年生の時現代文の時間に文章表現の指導をした。最初はテキストを使って仮名遣いや表記の学習をしたのだが、生徒たちは全く意欲を見せなかった。しかし、授業中の生徒たちはエネルギーを持って余している。そこで私は、まずは生徒たちの表現しようという意欲だけを評価することにした。文章以外の表現（絵が中心であったが）を授業に取り入れたところ、実に個性的な作品に出会い、それらの作品から私が意欲をもらったのである。文章表現のみが国語表現ではない。ひとりひとりの生徒が自分を見つめ、多種多様な方法で自己表現するのが、国語表現の基礎・基本である、と私は思う。

（草津東）―⑤他教科との連携をはかって小論文を書く
英語科、政経科との連携

《教材》

「SPECTRUM ENGLISH READING」(桐原書店)

Lesson 11 The Ecological Patadox by Mallory Frown

(P.105～114)

《授業のねらい》

①地球の環境問題について先進国と発展途上国ではどのように考え方が違うか読みとる

②それぞれの立場を重視した上で人類と自然が共存するための方策はないか考えてみる

③自分の立場を明らかにして論を組み立てる

④考えを文章化(日本語)し、ディベートの基礎力を養う

(国表との連携)

⑤簡単な英文で自分の考えを表現できるようにする

《指導過程》

第1時から6時は英語、7、8時は国表、9時は英語と10時は政経、11時は国表とそれぞれに実施

(第1時) 英語

①小論文のテーマについてのプリントを配布する

・「発展途上国における開発は、是か非か。自分の立場を明らかにして、その理由を論理的に述べなさい。その際、環境問題をどう考えるのかも、あわせて述べる必要がある。また、本文の読み取りだけでなく、新聞などから得た情報など交えて、反対派のものが納得するように材料を用意できると良い」

②単語テスト、新出単語練習、練習プリント1、2をする

③(P105~107)の本文を読み、開発か保護か、日本語で表に抜き書きさせる

(第2~6時) 英語科の授業

(第7時) 国表

・構成表と原稿用紙を配布し、小論文を書かせる。前回と違う点は時間内に仕上げることを目標にする(六十分行書き上げること)

(第8時) 国表

・政経との授業の第5時と同じように優秀作品を選出する(資料2)

(第9時) 英語科

・論法が一番ダイベートらしい(情緒や感情論に陥らず、理性的)ものを選び、授業する

(第10時) 政経科

英語科の観点で選び出したもので、政経科として気になる点を指摘して、生徒の小論文を鶴呑みにしないように指導(例、食料は先進国にもらえばいい等という点)

(第11時) 国表

・英語科で選ばれた小論文のうち国語的によい点、直した方がよい点など小論文の個人指導のような方法で添削したものを全員に印刷して配布し説明

(他教科と連携して)

(政経担当教諭の感想)

・年間のどこかで投げ入れたいと思っていた教材であったので、きわめて自然にできた。小論文を書かねばならないという意識で生徒が授業を受けていたので、いつもの授業とは違った。また、小論文を読んで自分の授業について足らなかつた点がわかり、補説できたので良かった

(英語科担当者の感想)

・以前から、英語の時間だけでは内容を掘り下げて読ませることに時間的に無理があることを感じていた。しかし英語の授業を単なる暗号読解には終わらせたくない。コミュニケーション力を養うには、まず、表現力―表現意欲を育てたいと願いながらも、具体的な方策にはなかなか

か出会えないでいた。情報を仕入れ、自分の中で消化し、自分の言葉として表現する。この流れが各自の中で作ることができれば、英語は「情報を仕入れるための教科」という位置づけができるのではないか。単なる受験のためだけでなく学ぶ意義を感じてくれるのではないかと思つた。そして、今回の実践は、生徒の活動、小論文、事後のアンケート等を見て、ほぼその目標を達成したと思う。なぜ、今英語を学ぶ必要があるのかを教師から押しつけるのではなく授業実践を通して、感じてくれたよう、非常に嬉しかった。

(国表担当者の感想)

政経、英語との連携した授業を最初から計画していたわけではなかった。しかし、小論文の指導を積み重ねていくのに従つて、国語科だけの指導の限界を感じさせられた。昨年度から本校では、国語表現の担当者と各教科の小論文担当者が連携して、小論文の個人指導を実施するようになった。そこで、それを授業にまで広げた取り組みが今回の報告である。他教科との連携という意味で始めての取り組みであったが、教科担当者の支援のおかげで、内容的にも質的にも深まりを得られたと思われる。最初は政経の先生に「こんなことを考えてるのだけれど、もし、やってみようと思つたら言つて」という軽い感じで始めたのも良かったと思う。次の英語の連携は政経でこんな取り組みをやつてるんやけどと話をしていたら「是非ともやってみよう」と

いわれた。ちょうど英語の先生が担任をしておられるクラスであったのが、更にやりやすい原因であつたらうと思われる。英語の授業の後、政経科と「三つどもえ」連携を図る計画はなかつたけれど、英語科で選び出されたものを政経科で見てもらつたら「ちよつと気になる点がある」との指摘から、「このままこの意見がいいと生徒が思つてしまふ」と問題なので、「自然発生的に連携した形になつた。アンケートの結果からも、「小論文を書くことで授業がしっかり聞けた」という生徒がほぼ全員であつた。感想でも「しっかり他教科の授業が聞けた」「自分の書く文章の範囲が広がった」「自分の意見をもてる」「人間的に成長する」と肯定的に受け止めているので、国語と他教科とも満足できる授業になつた。また、国語科だけの授業ではなく今後の国語教育の方向性をも示唆する「厚みのある授業展開」を実感できた実践となつた。

五、「興味・関心・意欲」を高めるための手だて

(甲西) ①入試予想問題(資料1)

意欲の喚起と、必然的に文章を深く読む。

②新聞スクラップとこころん方式(資料2) 集団学習力を育成する。

③進路に悩む友人にアドバイスしよう(資料3)

自分の進路について考え、友人のスピーチを聞くことによつて考えを深める。

(草津) ①面接指導の一貫としてスピーチを実施

進路決定を目前にした生徒たちにスピーチの意義付けをする。

②自分紹介の新聞

自己表現をする。

(草津東) ①生徒間の認め合いによる意欲の増加―感想の

フィードバック

各取り組みの感想を生徒にフィードバックすることにより、生徒の感想を通して、意欲づけをしていく方法を採った。

②教師も意欲をもらおう―先生に一言

「先生に一言」という欄をもうけることによつて、教師自身も、「よしまた次の手を考えよう」と、意欲がでた。

③ねらいの明確化

生徒に教師がどういうねらいで取り組んでいるのか説明する事により、意欲をあげ成果をたずねる。

六、共通アンケートの結果より

事前アンケート

①新聞アンケート 学校間格差が出た。

②話すこと聞くことアンケート 学校間格差はあまり出なかったが、生徒の気質の差が出た。

事後アンケート

*どれが楽しかったか

◎楽しかった

	甲西	草津	草津東
A 新聞	34%	36%	55%
B 小論文	15%	27%	48%
C スピーチ	10%	23%	43%
D 広告	63%	32%	76%
E クロス	35%	32%	67%

・楽しい取り組みとしては広告分析が一番であった。目新しい取り組みであったことやマスメディアの中で育った生徒にとつて、他と比較して楽しいものであったのだろう。甲西と草津東は楽しかったものの順番が同じであった。DとEは高い数字になったが、楽しさの質の違いが見られるものであるがどちらにも喜びを見いだしている。
×楽しくなかった

	甲西	草津	草津東
A 新聞	22%	32%	31%
B 小論文	24%	36%	38%
C スピーチ	18%	55%	36%
D 広告	7%	32%	10%
E クロス	22%	23%	7%

・やはりスピーチが一番いやなようである。
・スピーチがこれほど嫌がられている背景には、日本人の

人前で話すことに對する苦手が現れているのではないか。

・Bの小論文がもつと嫌がられると思つていたが、書くことに對する抵抗は少ないようである。

*表現力をつけるのに役立つのは

	甲西	草津	草津東
A 新聞	17%	14%	45%
B 小論文	69%	50%	67%
C スピーチ	11%	68%	69%
D 広告	41%	36%	52%
E クロス	28%	32%	38%

	甲西	草津	草津東
A ところてん	69%	86%	79%
B 友人	23%	59%	88%
C 教師	51%	82%	76%

*評価のうち参考になったのは

・Bの小論文が三校とも高率なのは表現力を付けるのにはやはり書くことであると認識しているからだろう。
 ・Cのスピーチが高率なのは、草津は面接指導が進路科によつて実施された直後であつたからと考えられる。草津東は完全に原稿を暗記し、完全に自分のものとして発表したからと思われる。甲西が低率だつたのは、まだ進学意識の低い二年生で、しかもクラスの雰囲気静かでおとなしいからではなからうか。

・草津、草津東はどの項目も参考になつたとしてゐる。草津東が友人が他の二校に比べ高いのは、生徒に相互評価する力が備わつてゐるからではないか。
 ・甲西がBがCの半分であるというのは生徒の意識の中で評価は教師がするべきものであると考えてゐるからであらう。

(数字部分全体分析)

・表現力を付けるのにスピーチが一番であつたが、楽しさでは最低である。楽しくはないけれど力を付けるのには一番であると判定してゐると考えられる。

・草津東のアンケートの肯定的な面での数字が高率なのは、授業のねらいを生徒に提示し、素直な生徒が多かつたため、こちらの意図を十分に理解したためではなからうか。
 ・草津は教師側の予想以上に小論文、スピーチを楽しみ、役に立つと答えている。就職する生徒が多くてても必要性を理解してゐると思われる。

・甲西の数字が他の二校と比べて低いのは、進路意識の低い二年生であることと、授業に對して受け身である生徒全体の気質にも起因すると思われる。

*社会生活を送る上で必要な「表現力」

(草津) 仕事をするにしても、しないにしても自分を表現するということはとても大切だと思う。私はこんな事を考えてゐる、私はこういう風に思う、こんな事がしたいとか、私はこんな人間なんだという事を周囲にアピールすること

によって自分自身がみとめられていくんじゃないかと思う。
(甲西) 人によっていろいろな表現方法があるが、人と違った自分だけの表現力が必要だと思う。

(草津東) これからの社会は個性の豊かな人材を求めている。だからその個人を生かすには文章や言葉の表現力であると思う。この表現力を養うことによって自分の個性を外に出しアピールすることができる。そうすればこれからの社会生活を充実して送れると思う。

* 社会生活を送る上で必要な「生きる力」

(草津) 自分であることに誇りを持って生きる力にしたい。友達や周りの人に認められ尊敬されるようになって自分の存在をアピールしたい。結婚して自分の子供を育てながら生きがいとしてそれを生きる力にしたい。

(甲西) 人と人とのつながりや、目標を持つことが生きる力になると思う。また精神的・社会的自立をすることが必要だと思う。

(草津東) 生きていく上で一番大切なのは僕は友人の存在だと前から思ってきた。そして友人とわかりあうためには自分をうまく表現して自分を知ってもらい相手のことも理解しなければならぬ。そういう意味で友人の存在が「生きる力」に僕はなると思う。

(記述部分全体分析)

・上記の例以外にも、全体的に表現は異なるが、「表現力」は「人と人をつなぐ必要欠くべからざるもの」とら

えているようである。そして、「表現力」が「生きる力」の土台となることを自覚している記述が多く見られた。

七、おわりに

当初は進路実現という視点での表現活動であったが、実践を続けるうちに、生涯教育に繋がる表現活動、つまり「生きる力」へ繋がる表現活動へと発展していく可能性を発見することができたように思う。研究会を重ねるごとに新たな発想が各自から提案され、「広告分析」「他教科との連携」も自然発生的に実践できた。共同研究という形態は各自が始めてであったが、「情報の広がり」と深まり」を実感した。一人の取り組みではとうてい浮かばない発想を得ることができた。研究会を持つ度、新しい発想、次への意欲を共有することができた。生徒間の学校格差はあるが、取り組みの「切り込み方」によって同じ授業のねらいが達成できると確信できた。特に、学力の一番低かった草津で他の二校と同じ取り組みができたことは、教師はもちろん生徒も大きな自信となった。生徒も「先生はいろいろな頭を働かせて考えないといけない授業をするから結構大変です。こんな授業の仕方をいろいろ考える先生も大変やろなあ、と思いました」と感想を述べている。

三校を並べて比較した場合、甲西では二年生ということもあってまだまだ進路意識や表現力の低い面はあるが、来年度に向けて積み上げの第一歩として今後の取り組みとし

たい。授業の初めに「先生、今日は何をするの？」と質問する声に励まされて研究が続けられたと思う。

ほとんど全員が進学希望の草津東では、受験に必要な国語力を付ける授業がが優先され、「生きる力」「表現力」等を付ける授業がおろそかになりがちである。ところが、最後の「先生への一言」の中に、「授業の中で受験が必要なものも教えてくれたし、これから生きていく上での表現力を少しは身につけられたと思うので良かった。いろいろしたことでも他人の意見を見て自分自身の考えだけでなく客観的に物事を見られるようになったと思う」「先生の授業は今も大切にしているけどその先の社会人になったときのためでもあるのでとても役に立ちます。今はみんなが受験の事ばかりだけど社会にできれば勉強も必要だけど先生が教えてきたことの方がもっと重要だと思います」といったものから受験に必要な国語力も「生きる力」としての国語力も付けられたことが実証された。

共同研究によって各校それぞれの課題が顕在化した。例を挙げると、新聞スクラップや広告分析において単に書かれていることを読みとるだけでなく、広告に込められている社会的な意味に気づかせることが必要である。また、評価法については相互評価、自己評価についての研究をさらに進めていきたいと考えている。「小論文指導」が受験指導にとどまらず、人間として生きていく上で必要な表現力につながる指導をこれからも目指していきたい。

資料 A

甲西高校 国語 II 授業の流れ（平成 8 年度）

（第 1 時）

1、一年時より、興味ある新聞記事をスクラップさせ、二年時初めの課題テストでは、新聞記事を使った小論文問題を出題している。なぜ、今、新聞記事に注目するのかを説明すると同時に、本年度は大学入試に出そうな記事を予想してもらったことを告げる。（資料 1）

2、新聞のコラムを使って要約の仕方を学ぶ。

（第 2 時）

1、昨年度の生徒のスクラップ例を紹介しながら「新聞を読む」のアンケートに答えさせる。

2、課題テストの添削例を紹介しながら小論文の書き方について説明する。

3、次回、スクラップノート全員が持つてくるように指示する。

（第 3 時）

1、前回のアンケートの中から、生徒の感想を紹介する。

2、「スクラップブックの評価をしよう」を配布して「とことん方式」（資料 2）の説明をする。

① 合計記事数を 1 に記入。

② 出題予想数を 2 に記入。

③ 2 分間で ABC 評価と、ひとこと欄を記入。

（A は 2 点、B は 1 点、C は 0 点とし、3 に記入。ノートを忘れてきたものは 0 点とする。）

④ 10 人分回ったら 1 + 2 + 3 の合計を計算して本人に返す。

⑤ クラスメートの評価とひとこと欄を見ての感想を書く。

（第 4 時）

1、高体連中の課題として「自然と人間について」という題で書かれた小論文の添削をさせる。「リライトしましょう」

（第 5 時）

1、第 4 時の「リライトしましょう」の補足説明をする。

2、「新学力観」Ⅱ「生きる力」についての記事を読ませ、本校が文部省指定を受けて大きく動こうとしていることを告げ、今何が求められているのかを考える。

3、次回、2度めの「スクラップブックの評価をしよう」を行うので、ノートを持ってくるよう指示する。

(第6時)

1、2度めのスクラップ評価をさせる。要領は第3時と同じ。(資料2)最後に、次の3点について感想を書かせる。

①前回にくらべて、自分が頑張った点

②前回にくらべて、クラスメートのスクラップノートが変わった点

③クラスメートの評価についてどう思うか、また評価は適切か。(第7時)

1、前時の「スクラップの評価をしよう」の中から拾い出した生徒の感想を配布する。

2、先生だけが評価するのではなく、クラスメートの相互評価のよい点について述べてもらおう。

(生徒間の働きかけにより意欲が出る。)

(忘れてきた生徒→励ましを受けて2回目はがんばった。)

3、「新聞を読もう」の事後アンケートを配布し、書かせる。

4、「話すこと・聞くこと」についてのアンケートを配布し、書かせる。

(第8・9時)

1、「スピーチをしよう」のプリントと(資料3)、2分間スピーチ用600字の原稿用紙を配布し、原稿を作らせる。

2、自分が訴えたい点は、どこなのかを考えさせる。

3、スピーチ原稿のできた生徒は前に持つてくるように指示し、教師が添削して主題文・一覧表に記入させ、スピーチの順番を決めさせる。

(第10・11時)

1、評価用プリントを配布し、聴き方、発表の仕方を説明する。(資料4)2、発表をさせる。

(第12時)

1、評価用プリントを参考にして、印象に残ったスピーチ者2名にメッセージを書く。(資料5)

2、自己評価をさせる。(資料5)

3、夏休みも引き続き、スクラップを続けるように指示する。(第13～16時)

1、図書室に入り、「岩波ブックレット」を読ませる。

2、「岩波ブックレット」を読んでキーワード・要旨を抜き出させる。(資料7)

3、作者に手紙を書かせる。(三五〇～四〇〇字)

4、自分の言いたいことを決めて小論文を書かせる。(五〇〇～六〇〇字)(資料8)

(第17～21時)

英語科とクロスカリキュラム

1、「こころ」英語文と「こころ」本文を比較対照し、相違表現を挙げる。

2、相違箇所について、なぜそのような異同が生じたのか日本文化の見地から分析する。なお、同時進行で英語科の授業では英語圏の文化的見地からの分析をお願いする。

(第22時)

ディベート的課題「こころ」裁判(資料9)

前時までのクロスカリキュラムを受け、「私(先生)」を糾弾するか弁護するかのいずれかの立場で論を展開し、所定の用紙に記入する。

(第23時)

1、前時の「こころ」裁判「用紙を」ところでん式評価表」で回覧しながら、全員が裁判官の立場で勝敗を評決していく。

2、規定の人数の回覧後、本人に返却し、他人の評価についての感想を書かせる。

(第24時)

1、広告の表現効果を分析し、所定の用紙に記入させる。

2、なぜ、その表現が印象に残るのか考えさせる。

3、回覧方式により、広告分析優秀作品を選出する。

(第25時)

1、前回生徒が選んだ広告分析や教師が選んだ優秀作品を示す。

2、全取り組みを通じた事後アンケートを書かせる。

資料1 懸賞付 今年は入試問題にどんな新聞記事が出題されるのだろうか？
大予想大会

朝日新聞の「社説」「天声人語」を筆頭に、毎年必ず新聞記事が入試問題として出題されている。その出典は毎日、読売、産経を問わず、朝刊、夕刊、日曜版と多岐に渡る。また、特に4月～10月の記事の出題率が高い。

現在、君たちは1年の現代文の課題だったスクラップを継続していることと思う。ものはついで、である。平成8年度一般入試問題として出題される記事を以下の要領で予想してもらいたい。また、その記事を利用した設問も予想してみたい。

的中者には懸賞を謹んで差し上げる。

【要領】

- 1、出題されそうな記事をスクラップし、記事の要点を一文にしてメモしておく。
- 2、記事に赤ペンで「○○大学出題予想 ○月○日○曜日○○新聞No.○○」と書く。
なお、○○大学は以下の「対象大学」から選択するものとし、No.○○は全予想記事の「通し番号」とする。
- 3、記事の横に、その記事を利用した設問を予想してメモしておく。

【対象大学】

- 1、立命館大学
- 2、関西大学
- 3、京都産業大学
- 4、センター（含、追試）
- 5、滋賀大学（二次）

以下の大学の設置全学部とする。

6/26(水)
スクラップブックの評価しましょう。

評価されるのは、年 組 級
1. 合計記事数 2. 出題予想数

資料 2

記事名	所属ラック	ひとこと
1 祥光	㊠・B・C	善いこと同様に悪くもなるといふこと...
2 田	㊠・B・C	「いかに」の善悪を「いかに」で決める。
3 真夜	㊠・B・C	善悪、善悪問題が何で決まるのか、それは「いかに」で決まる。その「いかに」が、善悪問題の本質である。それを「いかに」で決める。それが「いかに」である。
4 伴子	㊠・B・C	善悪も「いかに」で決まる。それは「いかに」で決まる。それが「いかに」である。
5 良	㊠・B・C	「いかに」で決まる。それが「いかに」である。
6 善悪子	㊠・B・C	「いかに」で決まる。それが「いかに」である。
7 善悪	㊠・B・C	善悪問題の本質は「いかに」で決まる。それが「いかに」である。
8 お茶	㊠・B・C	善悪問題の本質は「いかに」で決まる。それが「いかに」である。
9 善悪	㊠・B・C	善悪問題の本質は「いかに」で決まる。それが「いかに」である。
10 善悪	㊠・B・C	善悪問題の本質は「いかに」で決まる。それが「いかに」である。

1. 善悪問題の本質は「いかに」で決まる。
2. 善悪問題の本質は「いかに」で決まる。善悪問題の本質は「いかに」で決まる。善悪問題の本質は「いかに」で決まる。
3. 善悪問題の本質は「いかに」で決まる。善悪問題の本質は「いかに」で決まる。善悪問題の本質は「いかに」で決まる。

30

資料3

スピーチをしよう

あなたの夢は?

二年国語課題

私の訴えたいことを明確にしてスピーチ原稿をつくろう。

次の三パターンから一つ選ぼう。

(1)「進路に悩む友達に助言をしよう。」

設定1、あなたの友人がどのような進路を選べばいいか悩んでいる。興味があることも特にない。

設定2、あなたには興味を持って調べていることがあり、日々、スクラップを作りをしている。

設定3、あなたは友人に自分が興味を持っている内容を紹介し、それに関連した進路を勧めようと考えている。

以上の設定のもとで、友人に助言をしよう。

(2)「私の未来の夢について語ろう。」

私には将来の夢があり、そのために日々の生活の中で努力もしている。

私がなぜその夢を持つようになったのか、また普段考えていることについて紹介し、自己をアピールする。

(3)「現在、私が関心を持っていることについて紹介しよう。」

私はまだ、進路について迷っている。

しかし、興味を持っていることがあるのでそのことについて皆に紹介し、自己をアピールする。

私の訴えたいことを明確にしてスピーチ原稿をつくること。

(600字原稿用紙一枚)

資料4

スピーチ評価面表 (8)組(27)番(佐川 望)

発表者1 (森田 さん)

項目	評価
音声	A・ B ・C
態度・表情	A ・B・C
内容	A ・B・C
一言	A・B・C

発表者4 (利本 さん)

項目	評価
音声	A・ B ・C
態度・表情	A・ B ・C
内容	A ・B・C
一言	A・B・C

発表者2 (木下 さん)

項目	評価
音声	A ・B・C
態度・表情	A ・B・C
内容	A ・B・C
一言	A・B・C

発表者5 (山中 さん)

項目	評価
音声	A・ B ・C
態度・表情	A ・B・C
内容	A ・B・C
一言	A・B・C

発表者3 (川端 さん)

項目	評価
音声	A・ B ・C
態度・表情	A ・B・C
内容	A ・B・C
一言	A・B・C

発表者6 (濱田 さん)

項目	評価
音声	A ・B・C
態度・表情	A ・B・C
内容	A ・B・C
一言	A・B・C

